

日本料理の内容

【関係する社会、集団】

- 日本国民全体
- ・会席料理を頂点とする日本料理:関係する料理人、飲食事業者、食器や調度品を作成する職人
- ・会席の基本となる家庭料理(和食):家庭や学校教育の中で伝承

【地理的位置と対象範囲】

- 日本国内全ての地域
- ・例)京都の懐石、東京の寿司、蕎麦、大阪の割烹料理、うどん等
- ・その他にも地域に根付いた郷土料理があり、相互に関連し発展
- 諸外国にも幅広く浸透

日本料理の要素

① 多様で豊富な旬の食材そのものを活かす工夫

- 四季折々の気候と多様な地域に基づく豊富な旬の食材
- 新鮮な食材を活かす工夫
- ・運びはじめ ・片刃包丁 ・抗菌(わさび・酢・醤油等)

② 栄養バランスのとれた食事構成

- 「一汁三菜」
- ・米飯を中心に汁・多種類のおかず・漬けものという基本構成
- 栄養バランスのよい健康的な食事
- ・多様な食材を摂取し、うま味を活用して動物性油脂を多用しない調理法

③ 出汁のうま味と発酵食品

- うま味を抽出し、素材の味を活かす出汁
- 調味料・漬けもの・日本酒等、日本独自に発展した多様な発酵食品

④ 年中行事や人生儀礼との結合

- 季節の節目節目に行われる様々な年中行事や人生儀礼の核
- 共食により地域コミュニティや家族・友人を結びつける役割
- 自然の恵みと食材への感謝の気持ち
- ・きれいに食べるマナー、「もったいない」・「いただきます」

洗練・凝縮

会席料理 ・多様な料理と美しい盛り付け / しつらいへのこだわり / おもてなしの精神

6 再生可能エネルギーの推進

- 発電電力量の約43%という農山漁村の再生可能エネルギー供給ポテンシャルを最大限引き出し(2050年頃)、2020年代初頭までに再生可能エネルギー比率20%の実現に貢献

再生可能エネルギーの最大導入可能量に関する一試算



再生可能エネルギーを推進するための課題



陸上風力発電

【陸上風力発電の課題】

- 住宅地から離れた場所に設置するため、農地、耕作放棄地と林地の交換を行える制度の創設が必要。
- 保安林、自然公園に関する規制の取扱い。



地熱発電

【地熱発電の課題】

- 事業者の開発する権利を創設すべきか。
- 保安林、自然公園に関する規制の取扱い。



バイオマス発電

【バイオマス発電の課題】

- 林地残材等のバイオマス資源への廃棄物処理に関する規制の取扱い。



小水力発電

【小水力発電の課題】

- 年間を通じた安定的な水量の確保。
- 既存の水利権との調整の円滑化。



太陽光発電

【太陽光発電の課題】

- 耕作放棄地が優良農地の間に点在。農地の集約化・大区画化と併せて耕作放棄地を優良農地の周辺部にまとめ、そこにパネルを設置できるようにする仕組みが必要。



洋上風力発電

【洋上風力発電の課題】

- 漁場利用との調整の円滑化。
- 漁港区域内での取扱い。

【一般的な課題】

- 変動する発電量の調節を行うスマートグリッドの導人が重要。
- 農山漁村に雇用と所得を生み出すため、地域主体の発電事業を行う仕組みが必要。

再生可能エネルギーを推進するための新しい改革の方向

農林地等への導入可能性マッピング

- 農林地、海域等の活用やバイオマス、小水力等の農山漁村の資源の活用による再生可能エネルギーの導入可能性について、被災地を中心として先行的に調査を行うとともに、全国の他地域でも活用可能な調査手法を確立
- その上で、全国でのマッピングを効果的・効率的に実施

モデル地区の創出

- 事業の実施に向けた地域調整、施設整備等を支援し、事業収益性の向上に資する設備コストの低減、生産効率の向上等により、先導的な取組を実現

農山漁村の資源活用の新たな枠組み

- 市町村等による推進方針の明確化
- 事業用地の計画的創出
- 各種手続きの簡素化

III 更なる成長に向けて —イノベーションによる農山漁村のポテンシャルの発現—

イノベーション — 創造的破壊 — 新結合による革新

5つの新結合により革新を誘発

新しい財貨

高品質品種の導入、多面的機能・生物多様性配慮産品、
農山漁村環境

新しい生産方法

AI導入、植物工場、完全養殖工場

新しい販路

サプリメント、輸出、機能性食品、ペットフード

新しい原材料

バイオマス活用、絹糸人工血管

新しい組織

食料産業局

〔参考〕

「緑と水の環境技術革命」

—イノベーションを科学技術で—

- 農林水産業・農山漁村に存在する豊富な資源は、他産業の持つ革新的技術と融合することにより、**素材・エネルギー・医薬品等の新たな産業の創出**を通じて農山漁村の活性化に大きく貢献する可能性。

現 状

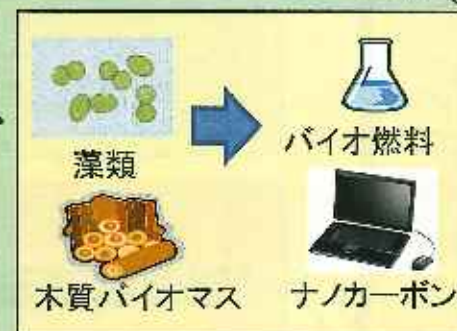
農林水産業・農山漁村には
・未利用のバイオマス
・太陽光、水力などの再生
可能エネルギー
等、国民生活に新たな恩恵を
与え得る資源が多く存在



課 題

潜在力を最大限活用し、
・低炭素社会の実現
・農山漁村の活性化
を達成するために

新たな技術の開発・導入による新産業の育成が必要



- こうした「**緑と水の環境技術革命**」は、**農業・農村の6次産業化の一つの柱として、食料・農業・農村基本計画 (2010年3月閣議決定) に位置付けられたところ。**

また、**新成長戦略** (2010年6月・2011年1月閣議決定) においても、「**農林水産分野の成長産業化**」「**観光・地域活性化**」への取組として位置付けられている。

「緑と水の環境技術革命総合戦略」で推進する重点分野

農山漁村資源の新規用途開拓

農林水産物、バイオマスなどの農山漁村の資源を活用した、新たな素材、新商品の開拓。

原材料

未利用バイオマスのエネルギー・製品利用

林地残材、稲わら、さとうきび残渣、余剰てん菜等、食料供給と両立するバイオマスのエネルギー・製品利用。併せて、バイオマス以外の再生可能エネルギーを総合的に利用。



生産方法

原材料

藻類等の新規資源作物の利用

他の作物と比較して繁殖速度が圧倒的に早く、日本が技術的蓄積を有する藻類等について、燃料、飼料、及び水質浄化等の多様な分野における利用。



生産方法

原材料

生物機能の高度利用

生物由来の医療用素材等の新たな素材、医療研究用実験動物など、動物や植物等が有する生物機能の高度利用。



生産方法

農林水産業の新たな事業機会の創出

農林水産物等の生産・流通・販売等の各工程において、革新的な技術を導入することにより、新たな事業機会を創出。

クロマグロ等の完全養殖

世界的需要を背景とし、天然資源の枯渇が懸念されるクロマグロ等の完全養殖技術。



農林水産物の高度生産管理システム

IT、LED等の人工光源、ロボット技術、ヒートポンプ等の「工」の技術を「農」に活用することで周年計画生産を可能とし、露地栽培や施設栽培の補完的な役割等を果たしうる農林水産物の高度生産管理システム。



超長期鮮度保持技術

高度な温度管理技術による青果物等の鮮度保持により、生鮮農林水産物の需給バランスの安定化、物流網の効率化、輸出拡大等に貢献しうる超長期鮮度保持技術。

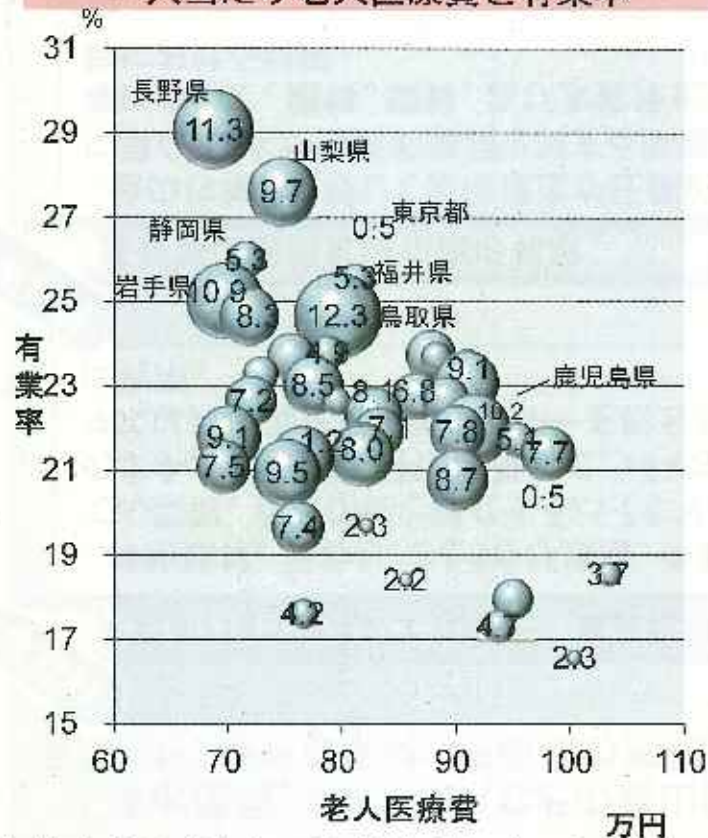


1 新しい財貨

(1) 福祉

➤ 老人医療費と65歳以上の有業率、農業者率の関係をみると、有業率が高い県(長野、山梨等)は総じて一人当たり老人医療費が低い傾向。また、農業者率が高い県(鳥取、長野、岩手等)は、一人当たり老人医療費が低い傾向にある。

一人当たり老人医療費と有業率

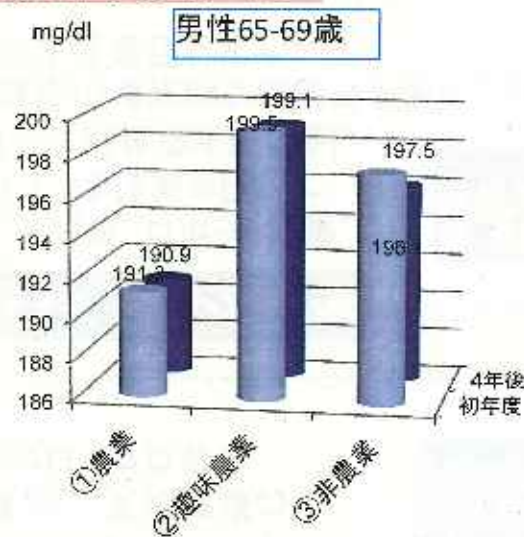
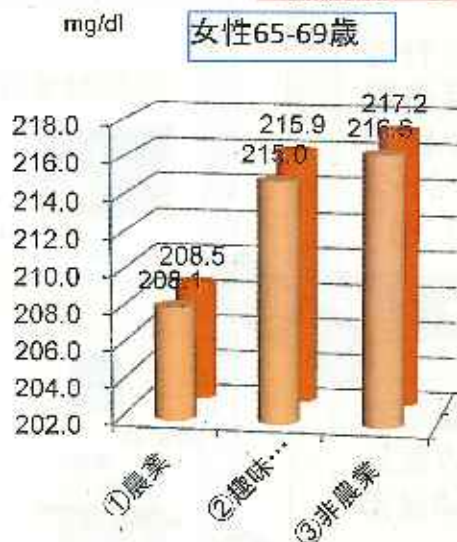


資料: 老人医療費は、厚生労働省「平成18年度老人医療事業報告」。有業率と農業者率は、総務省「平成19年度就業構造基本調査」。

注1) 図中の数値と球の大きさは農業者率(%)

2) 有業率と農業者率はそれぞれ65歳以上人口に占める有業者数、農業就業者数の割合。

農業者・非農業者の総コレステロール



松森ら「農村における高齢化と農作業が有する高齢者の疾病予防に関する検討」
畑地農業2009-606号

徳島県上勝町の事例

- ・人口約2000人。高齢化率(65歳以上の人口比率)は約50%。
- ・徳島県24市町村中、最も平均年齢が高い高齢化地域。林野率は85%。
- ・一人当たりの老人医療費は62万6922円と県内最低。県内1位との格差は31万円。

(株)いもどり(上勝町出資の第三セクター)

- ・野山の木の葉や草花が、高級料亭の盛りつけなどに使用される「つまもの」として多く利用されていることに着目し、全国の料亭に出荷する事業を実施。
- ・平均年齢70歳の約190人が、この事業に参加。

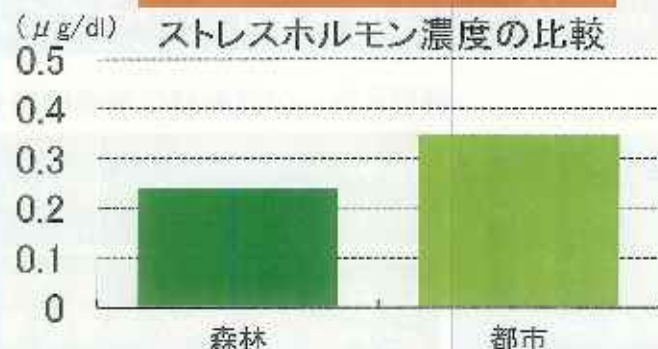


「いもどり」の商品

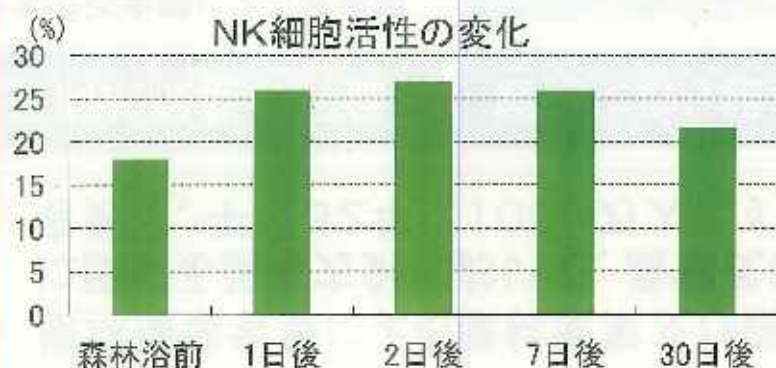
(2) 森林の癒し効果の活用

- ▶ 森林浴が人にもたらす生理的効果について研究が進められた結果、森林は都市よりもリラックス効果をもたらすことや森林浴により免疫機能が活性化することが科学的に解明。
- ▶ 科学的データを基に、森林の癒し効果を客観的に評価し、健康増進に活用する取組が各地で行われており、それぞれの地域の特色を活かしたプログラムやツアーの提供が行われている。

森林浴の生理的効果



※森林環境(ブナ林)と都市環境における人の唾液中のストレスホルモン濃度 資料:独立行政法人森林総合研究所



※森林浴による人の免疫機能の向上(NK細胞とは、ガン細胞やウイルスから体を守る免疫細胞の一種)。

資料:日本医科大学 李卿

森林の癒し効果を活用した取組事例

山形県小国町にある「ブナの森温身平」は、飯豊・朝日連峰の麓、磐梯朝日国立公園内に位置しており、ブナ原生林を中心とした自然環境を背景に、平成18年、日本初の森林セラピー基地として認定。

林内には、子供からお年寄りまで安全に森林浴を楽しむことができる、なだらかで道幅の広いメインロードや、自然地形をそのまま活かした道など総延長5.5kmの散策路が延び、目的や体力に応じてルート選択が可能。



散策路(山形県小国町)

山の民(マタギ)が、生活文化の解説や森林散策の案内をするなど、地域特有の取組を実施。

同基地内の滞在施設では、天然温泉が楽しめるとともに、地元産の食材を活かした健康食が提供されており、地域の観光振興にも貢献。

(3) 観光 —農山漁村の景観や自然環境、文化等の多面的機能の活用—

➤ 農林漁業者等による農林漁業及び関連事業の総合化並びに地域の農林水産物の利用の促進に関する基本方針において、農家民宿等のグリーン・ツーリズムのための施設の年間延べ宿泊者数を、平成32年に1050万人にする目標を設定

多面的機能の評価

日本学術会議による評価額

農業・農村が有する保健休養・やすらぎ機能 23,758 億円

森林の保養効果 22,546 億円

※多面的機能の評価額の一部を抜粋

観光に取り組む農業経営体数の推移

取組	2005年	2010年
貸農園・体験農園等	4,023	5,840
観光農園	7,579	8,768
農家民宿	1,492	2,006
農家レストラン	826	1,248

6次産業化からの観光事例

【秋田県】株式会社秋田ニューバイオフィーム

- 平成7年から農業生産、農産物加工・販売、観光農園やレストランなどの多角経営を展開
- ハーブを核としたまちづくりを推進

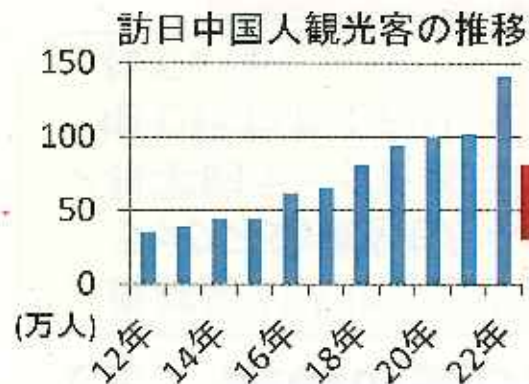


【岡山県】有限会社くぼ観光農園

- 岡山のぶどう狩り・栗拾い・市民農園のほか、キャンプまで田舎を満喫できる観光農園
- 旅行代理店への売り込みにより、現在来客の7割が県外からのツアー客



アジアを中心とする海外からの観光客のグリーン・ツーリズムへの取込み



日本の食の美味しさの認知



日本の農山漁村の魅力の認知

輸出促進

グリーン・ツーリズムの促進